

ビジネスホン最新製品動向

モバイルとCTI連携に焦点

長引く不況の影響で停滞傾向が続くビジネスホン市場。その状況を打破するために、メーカー各社は相次いで新製品の投入や既存製品のエンハンスを実施した。最新の製品トレンドを追った。

文 藤田 健(本誌)

3月11日に発生した東日本大震災は、ビジネスホン市場にも大きな影響を及ぼした。

工場自体が大きな被害を受けたメーカーもあれば、その後の計画停電の影響で、稼働率が大きく低下して生産に影響が出たところもある。

そうしたなかで各社は「顧客優先」の立場を打ち出し、デモ用や保守用に保存していた製品も出荷するなど、できる限りの取り組みを実施した。

4月末で応急処置も含めて復旧が一段落し、今後は本格的な復興に向かい、それにとまってビジネスホンの需要増も見込めるが、全社が頭を抱えている問題がある。今後の部品の供給不足だ。自動車など他の産業と同様、部品メーカーの多くが東北地方に工場を持っており、このまま行

けば、部品の在庫が底を尽く夏以降に生産数を抑制しなければならない事態も想定される。

だが各社は、「そうならないよう、できる限り手を尽くす」と口を揃え、影響を最小限に留めるべく、全力を尽くしている。

市場は400億円強で推移

震災を乗り越えて、需要回復を目指すビジネスホン市場だが、現状に目を移すと、「ユーザーのビジネスホンに対する投資意欲は相変わらず低く、買い換え需要はなかなか進んでいない」というのが各社の一致した見解だ。

情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)の調査によると、国内のビジネスホン市場はこの数年、400億円

強で推移しており、停滞の傾向が続いている。このうち、15%程度を占めるIP対応ビジネスホンについては、IDC Japanが2010年10月に発表した国内企業VoIP機器市場の調査によると、売上ベースで、2009年は対前年比16.4%減だったものの、2010年上半年は前年同期比0.6%減まで回復している。だが、要因はコスト削減を重視したIP-PBXユーザーが、価格が安価なIPビジネスホンを選択するケースが増えているためであり、ビジネスホンのユーザー層で需要が喚起された結果ではない。「ビジネスホンのユーザー層では未だにIP化は受け入れられていないのが実状」とメーカー各社は口を揃える。

そうしたなかで、この停滞を打破すべく、昨年後半から今年にかけて、新製品の投入や既存製品のエンハンスが相次いでいる。各社はどのような点にポイントを置いて需要を喚起しようとしているのか。ビジネスホンの最新トレンドを追う。

小規模向け機能を充実

まず、新製品を投入した各社の特徴をみていこう。

NTT東日本/西日本は3月1日から、SOHO/小規模事業所向けの「Netcommunity SYSTEM BX」の販売を開始した。2006年12月に市場投入した「BX」の後継機であり、従

来と同様に「主装置タイプ」と、電話機に主装置機能を内蔵した「主装置内蔵タイプ」をラインナップしている。

「フレッツ 光ネクスト」や「フレッツ 光」の「ひかり電話」の直収を実現し、最大5番号まで利用できるようにしており、ユーザーは利用用途に応じて電話番号の使い分けが可能だ。内線電話機として最大8台接続でき、外線利用時は2人同時に通話できる機能を備えている。

電話機は、丸みのあるラウンドデザインを採用。操作性の向上を図るために、ダイヤルボタンもラウンド形状にしたり、使用頻度の高い保留ボタンをイエローカラーにして視認性を高めている。また、楕円形の十字キーを中央下部に配置。電話帳検索や短縮ダイヤル、発着信履歴などの各種機能も使いやすくした。液晶ディスプレイは、白色バックライトを採用して薄暗い場所でもはっきりと確認できるほか、最大45度までのフル可変が可能であり、より見やすい角度で利用できる。

新電話機は、標準電話機に加え、ハンドセットをコードレス化したカーコードレス電話機や、留守番停電電話機、アナログコードレス電話機、デジタルシステムコードレス電話機等、豊富にラインナップしている。

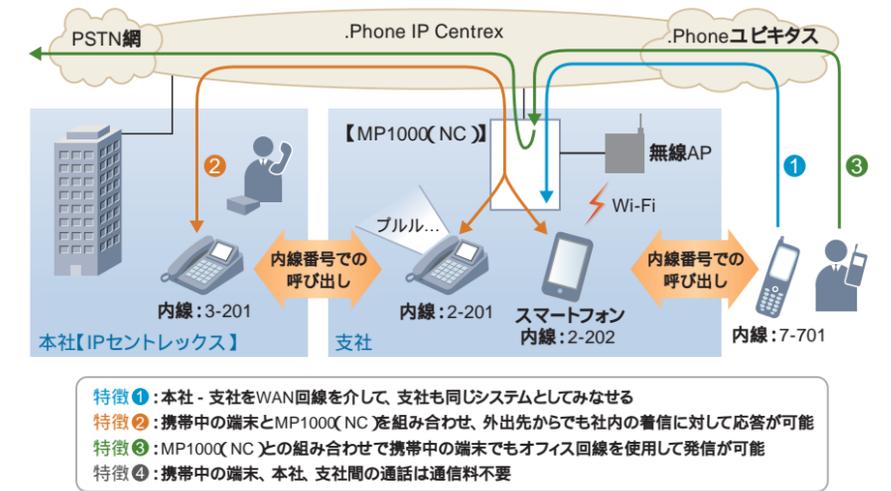
SOHO/小規模事業所や店舗兼住宅向けに必要な機能も充実させている。

まず、転送機能では、電話着信時に登録済みの転送先へ無条件に転送する無条件転送機能や、最大3台の電話機に順次転送する順次転送機能など、6つの転送モードを装備し



サクサの中小規模事業所向けフルIPシステム「Agrea MP1000(NC)」。右はIPカメラドアホン「DR1010」

図表1 サクサ「MP1000(NC)」とNTTコムの子サービス連携イメージ



た。また、登録済みの任意の電話番号から着信した際、自動的に折り返し電話発信する設定や、本商品を経由して第三者に中継発信する設定ができる「コールバック機能」も備えている。

さらに、オプション品のカラーカメラドアホンや音声ドアホン等と接続することで、電話機で室内から来訪者の対応も行うことができる。

モバイル連携機能を充実

サクサは4月27日に、中小規模事業所向けフルIPシステム「Agrea(アグレア)MP1000(NC)」の販売を開始

した。

事業戦略推進本部事業企画部事業戦略・商品企画担当部長の小野明氏は、「景気の低迷もあって、10年近くも使い続けるユーザーもあるなかで、IPで新たな付加価値を提案しなければ、リプレース需要を喚起できない」とフルIPシステムの投入に踏み切った理由を語る。

MP1000(NC)はまず、PC連携に力を入れている。Windows PC専用のダイヤル発信アプリケーション「de コール」を無償提供するほか、通話録音や留守録をPCと連動させ、ファイル管理を行うようにした。



NTT東日本/西日本のSOHO/小規模事業所向け小型ビジネスホン「Netcommunity SYSTEM BX」。右が「主装置内蔵タイプ」